

団体調査集計

狭山市地域福祉推進計画
団体等アンケート調査報告書

令和2年4月

狭山市・社会福祉法人狭山市社会福祉協議会

目 次

第1節 調査の概要	・・・	1
第2節 単純集計の結果		
(1) 回答団体等に関する基本的な情報	・・・	2
(2) 他の「機関・団体との関わり」	・・・	13
(3) 今後の「地域福祉」の方向性	・・・	17
(4) 「地域福祉」の進捗状況	・・・	21
(5) 自由記述	・・・	24
第3節 クロス集計の結果		
(1) 他団体との交流状況	・・・	35
(2) 活動上の課題	・・・	36
(3) 市や社会福祉協議会の今後の取り組みへの要望	・・・	38
(4) 活動参加者を増やすための情報提供方法	・・・	40
(5) 市や社会福祉協議会が優先して取り組むべきこと	・・・	41

団体等アンケート調査

第1節 調査の概要

(1) 調査の目的

狭山市地域福祉推進計画の評価にあたり、狭山市民の福祉に関する意識及び潜在的なニーズ等を把握するとともに、今後の地域福祉に関する計画のあり方を検討するための基礎資料とすることを目的にアンケート調査を実施しました。

(2) 調査対象団体等

235 団体（市内に事務局等を置く地域福祉関係団体等）

(3) 調査方法

アンケート調査は、郵送配布・郵送回収

(4) 調査期間

アンケート調査

令和元年12月2日（火）から12月27日（金）まで

(5) 回収結果

- ① 配布数：235 団体
- ② 有効回収数：160 団体
- ③ 回収率：68.09%

前回調査

- ① 配布数：204 団体
- ② 有効回収数：112 団体
- ③ 回収率：54.90%

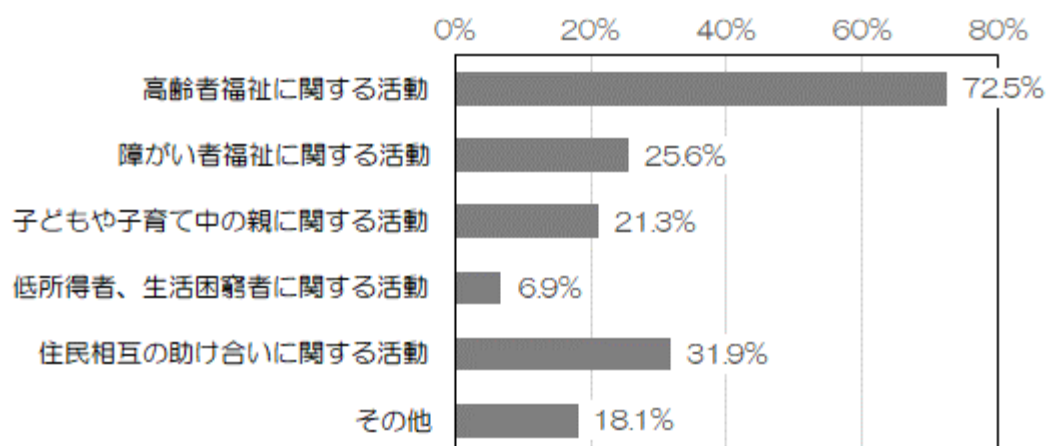
(6) 注意事項

- ① 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しています。四捨五入の関係で、合計が 100%にならない場合があります。
- ② 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常の 100%を超えます。
- ③ 選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いることがあります。

第2節 単純集計の結果

(1) 回答団体等に関する基本的な情報

問1. 団体の主な活動分野（〇はいくつでも）



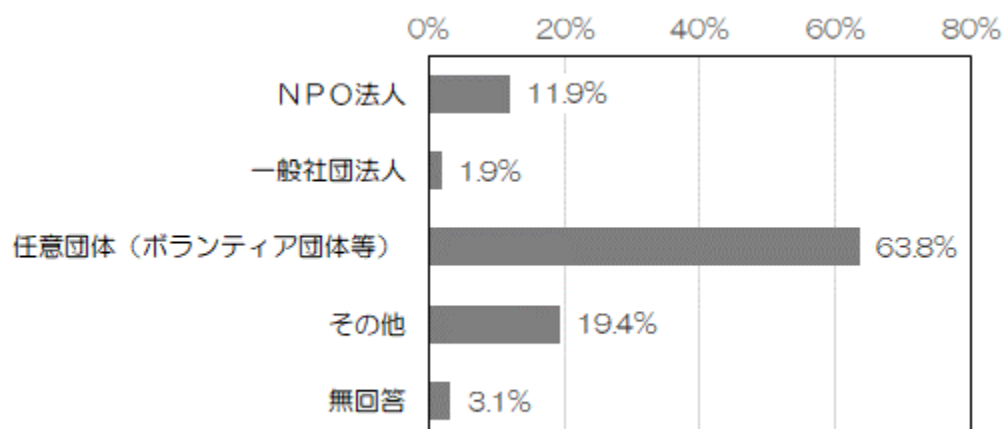
【その他の内容】

- ・ 特養ホーム手伝い、募金活動、ディサービス手伝い、防災訓練参加、市イベントに参加、バザー
- ・ 地域支え合いの仕組み推進プロジェクト⇒地域商品券の発行・管理⇒地域経済の振興⇒まちづくり推進
- ・ 傾聴活動
- ・ 地域高齢者の健康
- ・ 市民に対する啓発活動
- ・ 老人福祉施設への支援
- ・ 生涯学習
- ・ 地区老人会
- ・ 自治会活動
- ・ 地域住民の交流
- ・ 高齢者施設で話し相手
- ・ 地域の活性化（日頃の互助連けいの育成）
- ・ 地域住民全般、子供から高齢者まで
- ・ 懇親会等による生きがい作り
- ・ 環境保全や地域活性化などに関わる活動
- ・ 見守り活動
- ・ 自治会の行事に参加
- ・ パソコン教室、各種イベント
- ・ 狭山台地域と近隣のシルバー

「高齢者福祉に関する活動」（72.5%）がもっとも高く、次いで「住民相互の助け合いに関する活動」（31.9%）「障がい者福祉に関する活動」（25.6%）、「子どもや子育て中の親に関する活動」（21.3%）の順となっている。

※前回調査では、「高齢者福祉に関する活動（事業）」（56.3%）がもっとも高く、次いで「障がい者福祉に関する活動（事業）」（38.4%）「子どもや子育て中の親に関する活動（事業）」（33.0%）、「住民相互の助け合いに関する（事業）」（32.1%）の順となっている。

問2. 団体の運営主体



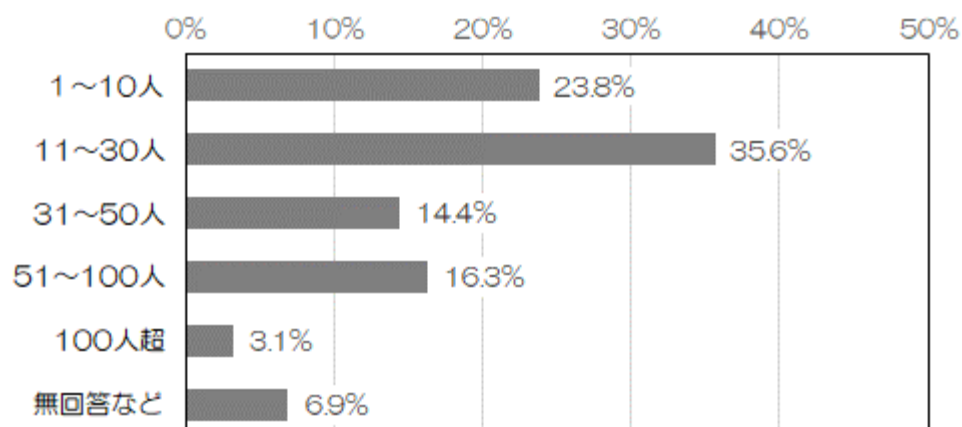
【その他の内容】

- S S C C子育て支援学科卒業生等の有志ボランティア
- けやきの会、UR
- 敬老会
- 老人会
- 全国老人クラブ連合会
- 老人会
- 柏原地区自治会連合会
- 北入曾長寿会
- 自治会、サークル
- 団地内老人活動
- 自治会活動
- ふれあいサロン
- 社協在宅福祉事業
- 公益社団法人
- 自治会連合会
- 社協柏原支部

「任意団体」(63.8%) がもっとも高く、次いでNPO法人(11.9%)となっている。

※前回調査では、「任意団体」(49.1%) がもっとも高く、法人格を持った団体は 14.3%である。

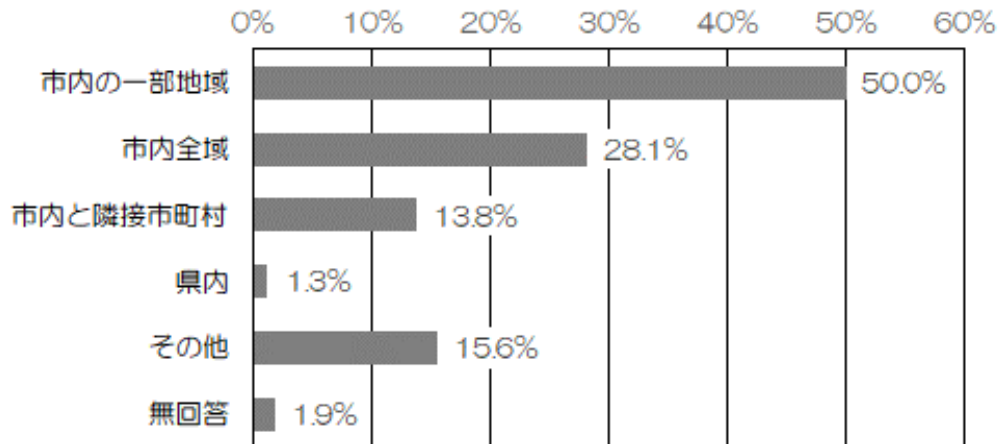
問3. 団体の構成員数



「11~30人」(35.6%) がもっとも高く、構成員 30 人以下の団体・事業者が全体の 59.4% となっている。

※前回調査では、「11~30人」(40.2%) がもっとも高く、構成員 30 人以下の団体・事業者が全体の 58.1%となっている。

問4. 団体の主な活動（〇はいくつでも）



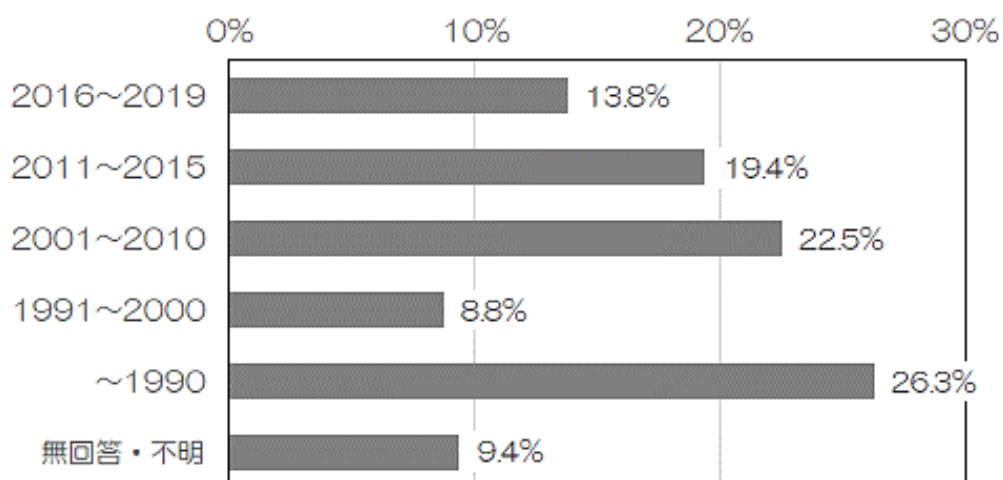
【その他の内容】

- 活動は1ヶ所だが、来られる方はどこからでも
- 地域単位会から連合会
- 担当地域内
- 自治会域を基本としている
- 何方でも自由参加
- 自治会内老人クラブ
- 主に町内会
- 主に自治会地域内
- 自治会が主です
- 団地内と地域
- 年1回は福祉施設を借りる
- 社協およびイベントによっては県内
- 富士見公民館を中心に市内全域
- フラワーヒル団地内
- 制限なし

「市内の一部地域」（50.0%）がもっとも高く、次いで「市内全域」（28.1%）の順となっている。

※前回調査では、「市内の一部地域」（47.3%）がもっとも高く、次いで「市内全域」（39.3%）の順となっている。

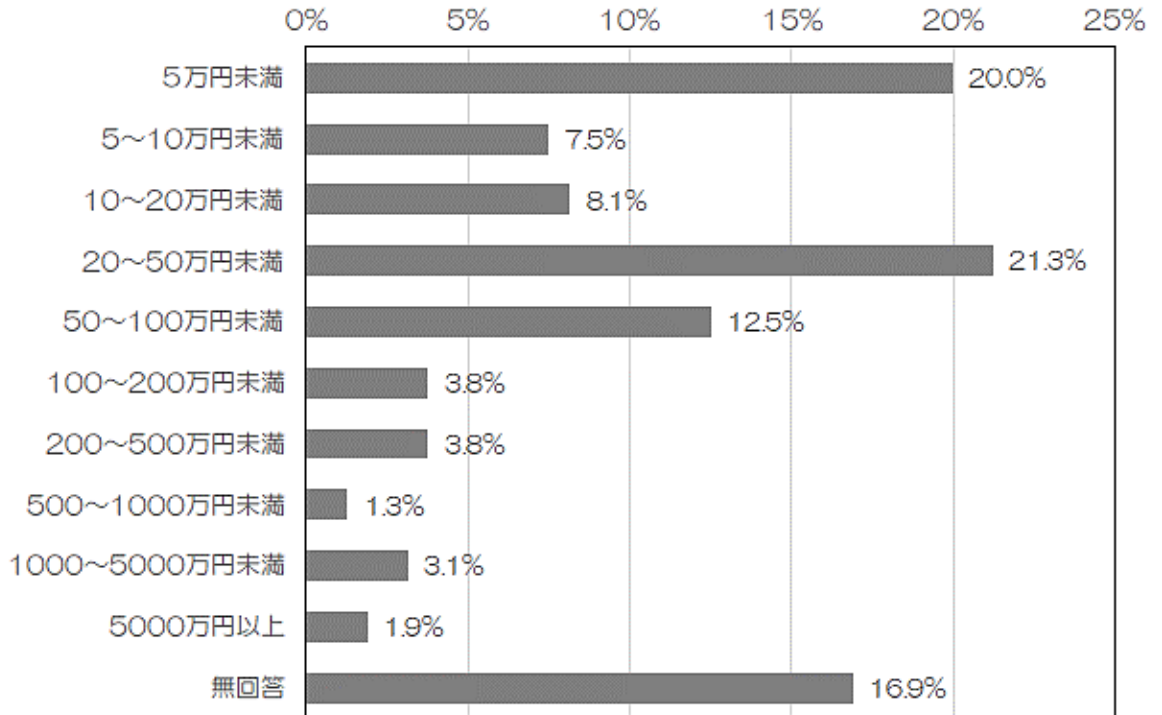
問5. 団体の発足年度



発足してから20~10年以内（22.5%）の団体もっとも高く、5~10年以内を合わせると全体の41.9%となっている。

※前回調査では、「5年以内」（25.9%）がもっとも高く、発足してから10年以内の団体・事業所が全体の42.0%となっている。

問6. 団体の財政規模

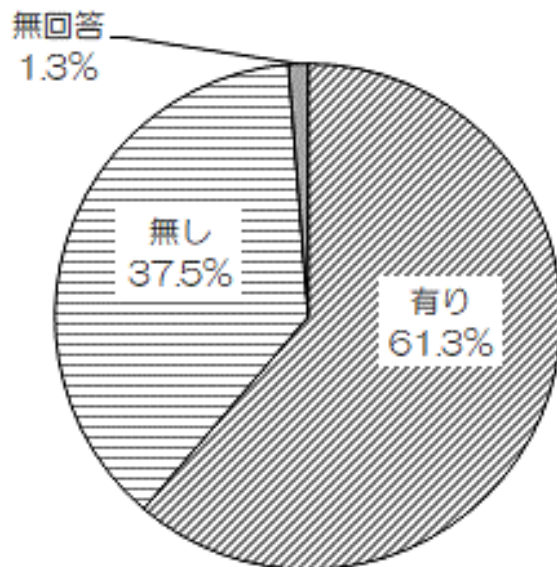


「20~50 万円未満」(21.3%) がもっとも高く、次いで「5 万円未満」(20.0%)「無回答」(16.9%)、「50~100 万円未満」(12.5%) と続く。

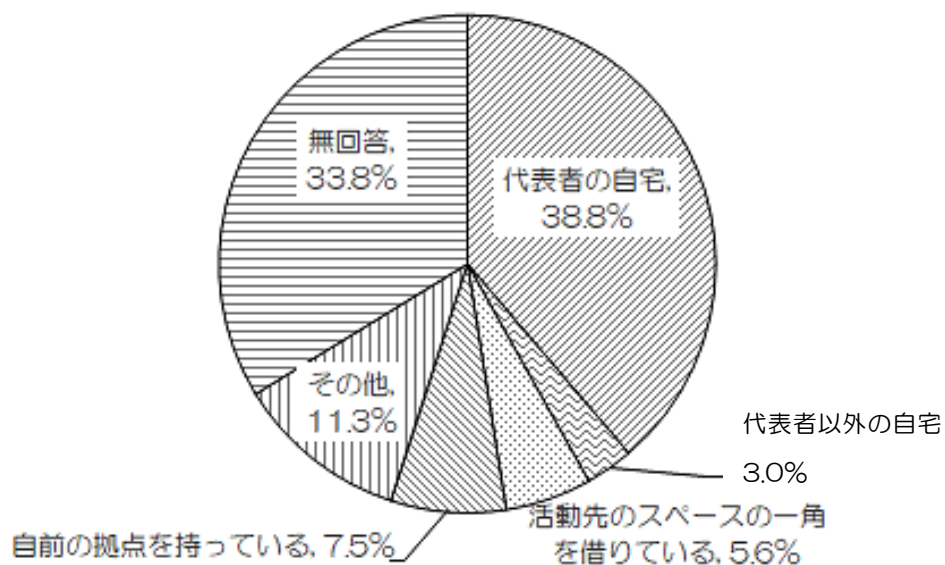
※前回調査では、「無回答」(22.3%) が高く、「5 万円未満」(14.3%) 次いで「10~20 万円未満」(12.5%)、「5~10 万円未満」(10.7%)、50~100 万円未満 (10.7%) と続く。

問7. 団体の事務局の有無

「有り」が61.3% (前回は67.9%)



問8. 事務局の場所



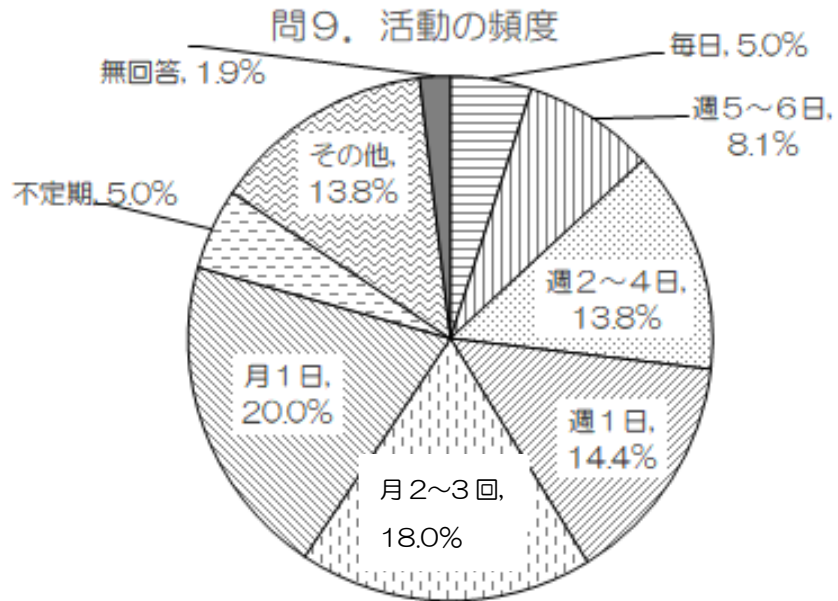
【その他の内容】

- UR
- 市役所、福祉政策課
- 市役所内
- 公民館
- 自治会内
- 市役所、長寿健康部健康づくり支援課
- 市役所、長寿安心課
- 老人クラブ
- 地区センター内
- 狭山市社会福祉協議会

「代表者の自宅」(38.8%)か「代表者以外の自宅」(3.0%)の合計41.8% 自前の拠点を持っている団体は7.5%である。

※前回調査では、「代表者の自宅」(43.4%)か「代表者以外の自宅」(9.2%)の合計52.6%。自前の拠点を持っている団体は14.5%である。

問9. 活動の頻度



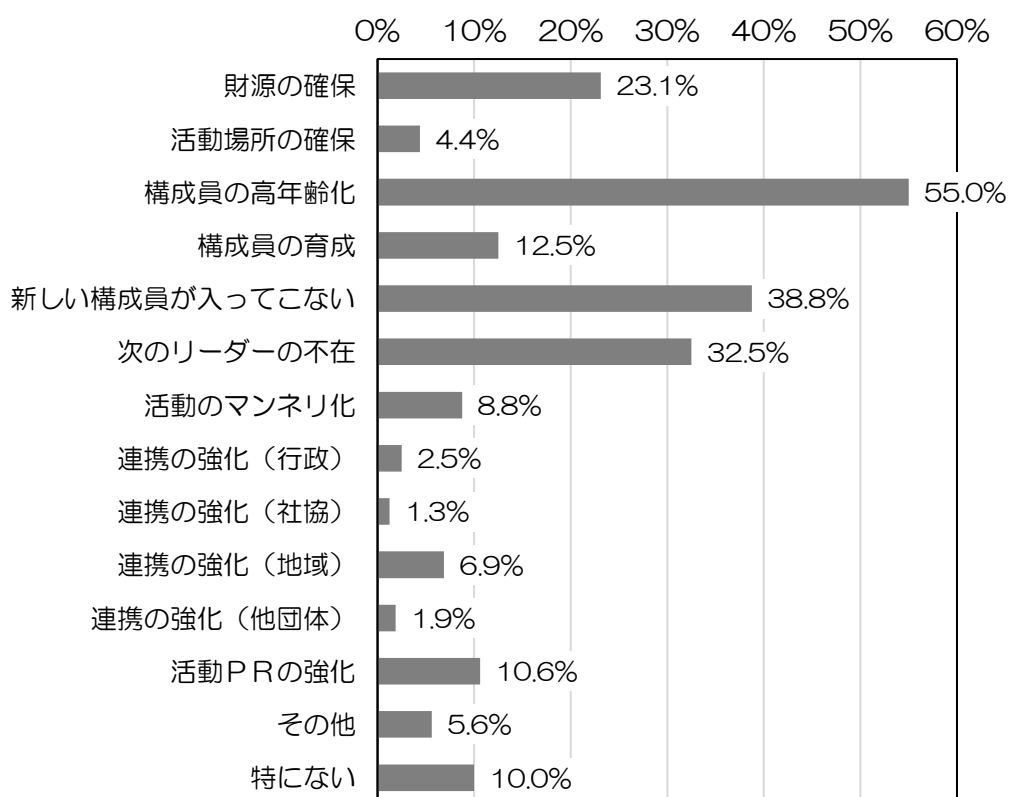
【その他の内容】

- ・ディサービス月2回・特養ホーム月6回・バザー年3回・募金3
- ・月1回神社清掃・週4回ゲートボール、グランドゴルフ
- ・月1回定例会、年1回総会、新年会、研修会、講演会
- ・回・防災訓練2回
- ・月1回と出張あり
- ・年に7・8回
- ・月に1・2日
- ・第三木曜日
- ・定期的活動月2回、不定期週1回くらい
- ・各々の活動を合計すると月に8回程度
- ・月6回
- ・月火水木金

「月1日」(20.0%) が最も高く、続いて「月2~3日」(18.0%)「週1日」(14.4%) で、半数(52.4%)になる。また「毎日」(10.7%)「週5~6日」(8.1%)「週2~4日」(13.8%) 3つの合計が32.6%になる。

※前回調査では、「月1日」(20.5%) が最も高く、続いて「月2~3日」(13.4%)「週1日」(13.4%) で、約半数(48.2%)になる。また「毎日」(5.6%)「週5~6日」(12.5%)「週2~4日」(11.6%) 3つの合計が34.9%になる。

問10. 活動上の課題、困っていること（〇は3つまで）



【その他の内容】

- ・雨天・真夏・極寒期の活動場所
- ・活動場所への足の確保
- ・会員の高齢化
- ・スタッフの確保

「構成員の高齢化」（55.0%）が最も高く、次いで「新しい構成員が入ってこない」（38.8%）、
「次のリーダー不在」（32.5%）、「財源の確保」（23.1%）、で、財源より人材面で困っている。

※前回調査では、「構成員の高齢化」（54.5%）が最も高く、次いで「財源の確保」（29.5%）、
「新しい構成員が入ってこない」（25.9%）、「次のリーダー不在」（25.0%）、「構成員の育成」
（20.5%）で、人材面で困っている。

問11. 活動上での課題、困っていることを解決するために、どのような対応をされていますか【自由記述】

《主な意見》

お 金

- 財源の確保のために、自治会に補助してくれるよう交渉中。
- 福祉に理解のある企業に援助をお願いしたいと思っている。
- 財源確保のため、バザーを開催しているが品物が少なくなり先細りの感がある。
- ランチ代の値上げ。

場 所

- 子どもが単独でも来やすい場所の確保が必要。
- 活動場所として、自治会館や集会所の活用を進めたい。

人 材

- 人材確保に募集チラシを配布したり種々のイベントに参加したりしているが、現段階では成果が出ていない。
- 会員を増やすための母体（例：市民大学卒業生の活躍などの場として地域デビュー）がないのも大きな悩みである。
- 男性は定年退職後もカミシモを脱げないが、退職後の人生が永いのを自覚して（地域デビューをして）欲しい。
- 若い人材を育てるため、ボランティアを小学高学年から中・高校教育の中にしっかりと組み入れてほしい。
- 参加者の中から構成員になってくれる人を探している。
- ボランティアを開始する年齢が高いため（70歳以上から始める）だいぶ育ってきたかなという頃に高齢になってしまう。
- 次のリーダー候補者はいるが、多忙のため引き受けてもらえないのが現状。

情 報

- 市広報の掲載制限をもう少し緩和して欲しい。

連 携

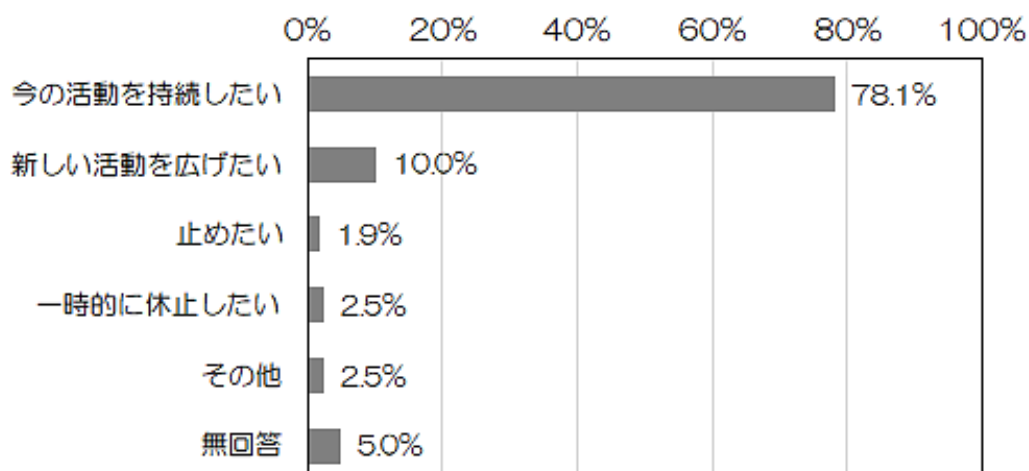
- 課題、問題点を共有化するため、各団体が出席する場を設けると良い。

その他

- 地域的關係で車の運転出来る人が少ないため、移動手段の確保が出来ず活動が制限されている。
- 困っていることをサロン内で話したことが解決の糸口になった。

※詳細は、別途25ページ以降を参照

問12. 今後の活動予定



【その他の内容】

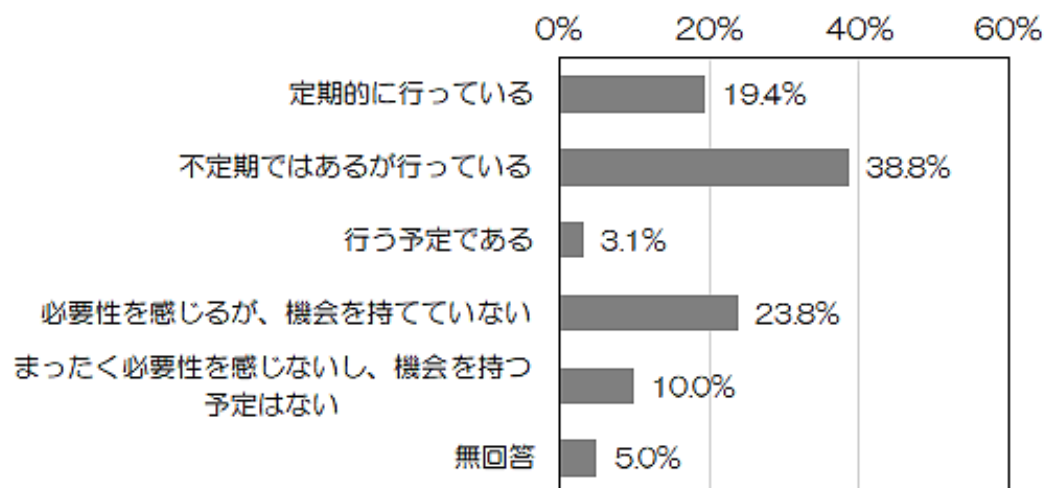
- ・市と関係しない任意団体とする
- ・止めたいが続けざるを得ない
- ・持続していかなければならない

「今の活動を継続したい」(78.1%)、「新しい活動を広げたい」(10.0%)の合計で88.1%となっており、「止めたい」(1.9%)が出てきている。

※前回調査では、「今の活動を継続したい」(75.0%)、「新しい活動を広げたい」(17.9%)の合計で92.9%であり、「止めたい」は回答無しである。

(2) 他の「機関・団体との関わり」

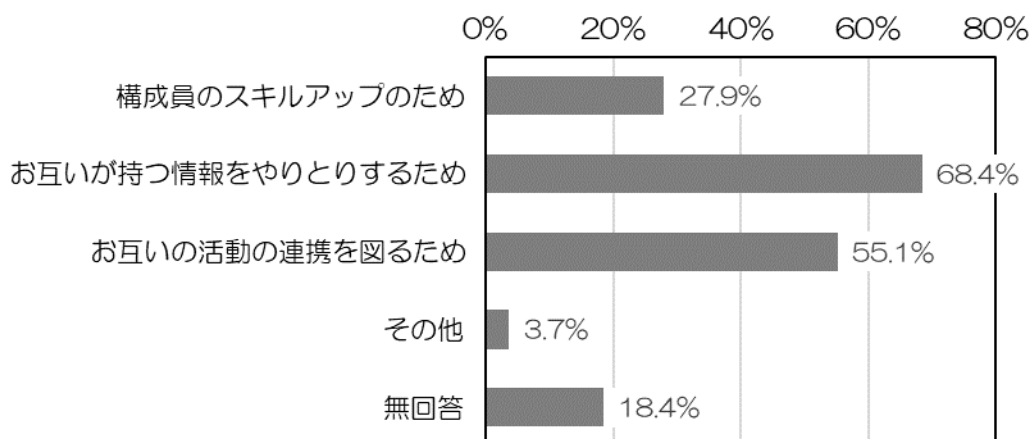
問13. 他の団体との勉強会や意見交換会、交流等の状況



「定期的に行っている」(19.4%)と「不定期であるがおこなっている」(38.8%)を合わせると、58.2%である。また「必要性を感じるが、機会を持っていない」(23.8%)である。

※前回調査では、「すでに定期的に行っている」(21.4%)と「不定期であるがおこなっている」(40.2%)を合わせると61.6%である。また「必要性を感じるが、機会を持っていない」(28.6%)である。

問14. 他の団体との交流を行う目的は何ですか（〇はいくつでも）



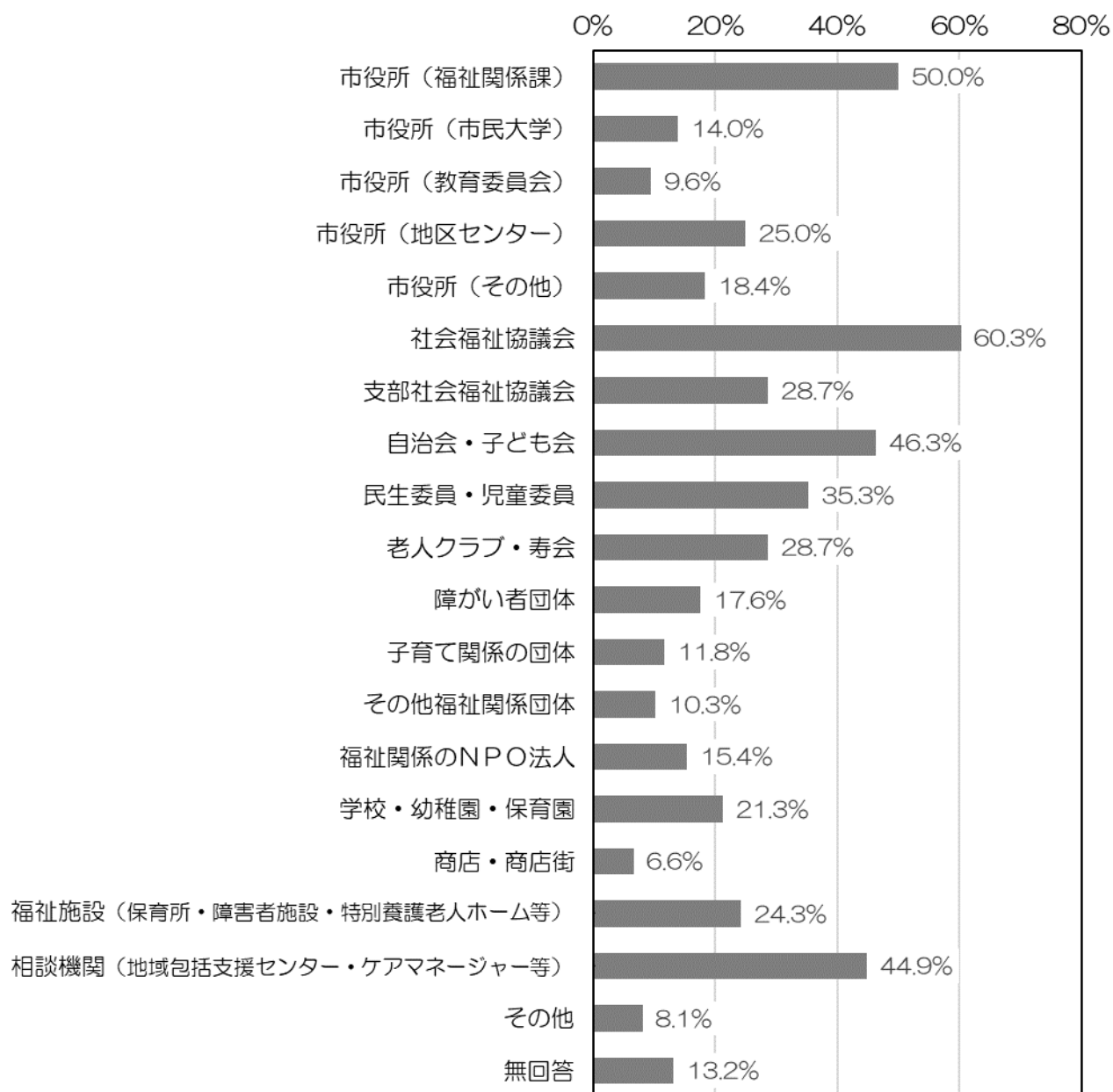
【その他の内容】

- 他の団体にも赤十字を理解して欲しい
- 福祉老人ホームへの慰問
- 精神障害について知ってもらうための勉強など

「お互いが持つ情報をやりとりするため」（68.4%）が最も高く、「お互いの活動の連携を図るため」（55.1%）、「構成員のスキルアップ」（27.9%）と続く。

※前回調査では、「お互いが持つ情報をやりとりするため」（67.0%）が最も高く、「お互いの活動の連携を図るため」（53.6%）、「構成員のスキルアップ」（35.7%）と続く。

問15. 貴団体では、現在、どのような機関・団体との関わりがありますか
 (〇はいくつでも)



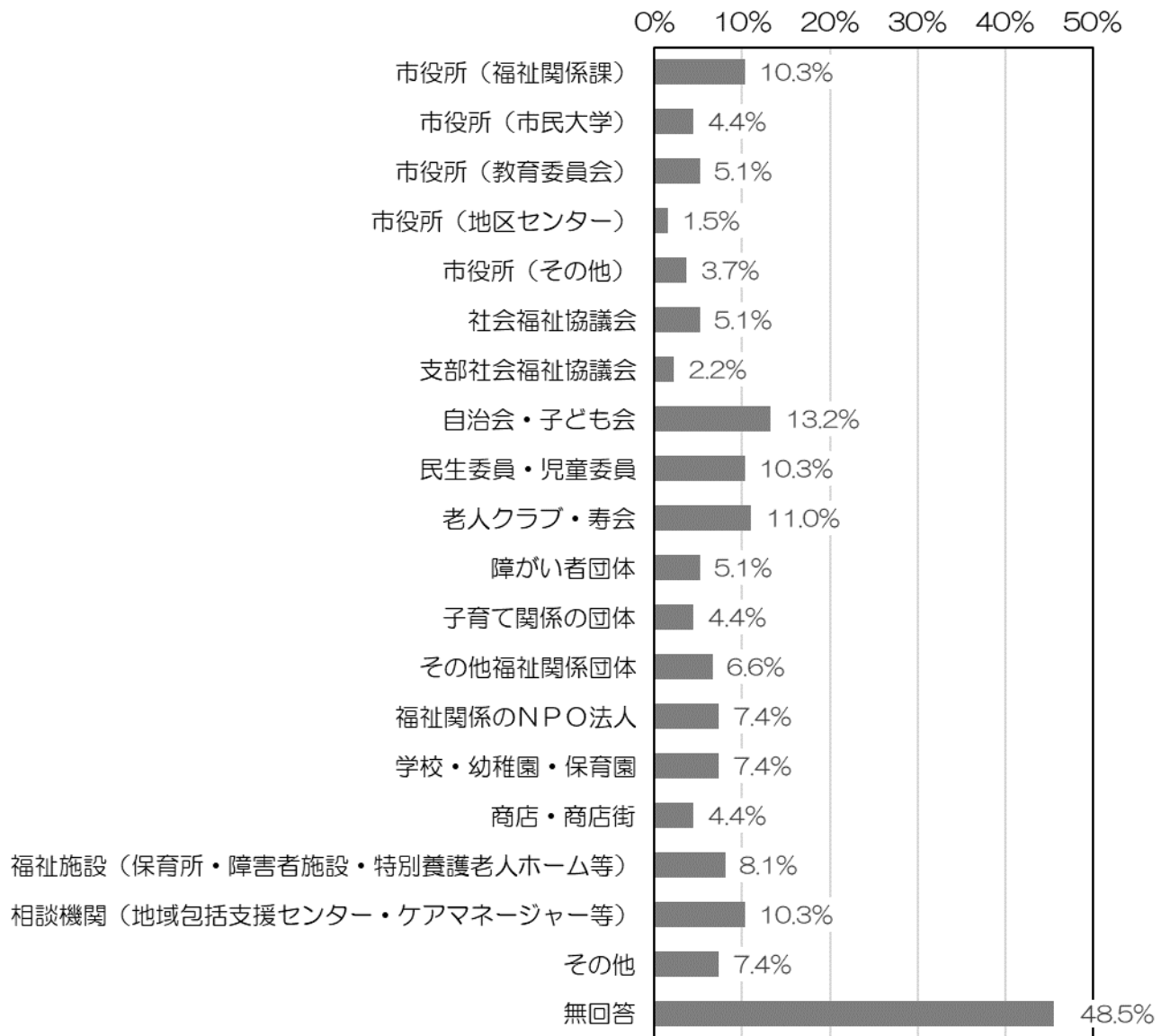
【その他の内容】

- ・生涯学習情報コーナー
- ・フェイスブック
- ・交通防犯課年2回
- ・生活クラブ、生協フードバンク
- ・他市町村団体

「社会福祉協議会」(60.3%) が最も高く、続いて「市役所/福祉関係課」(50.0%)、「自治会・子ども会」(46.3%)、相談機関(44.9%)である。

※前回調査では、「社会福祉協議会」(67.0%) が最も高く、続いて「市役所/福祉関係課」(55.4%)、「自治会・子ども会」(42.0%)、「民生委員・児童委員」(36.6%)である。

問16. 現在は関わりがない機関・団体で、今後関わりを持ちたい機関・団体がありますか（〇はいくつでも）

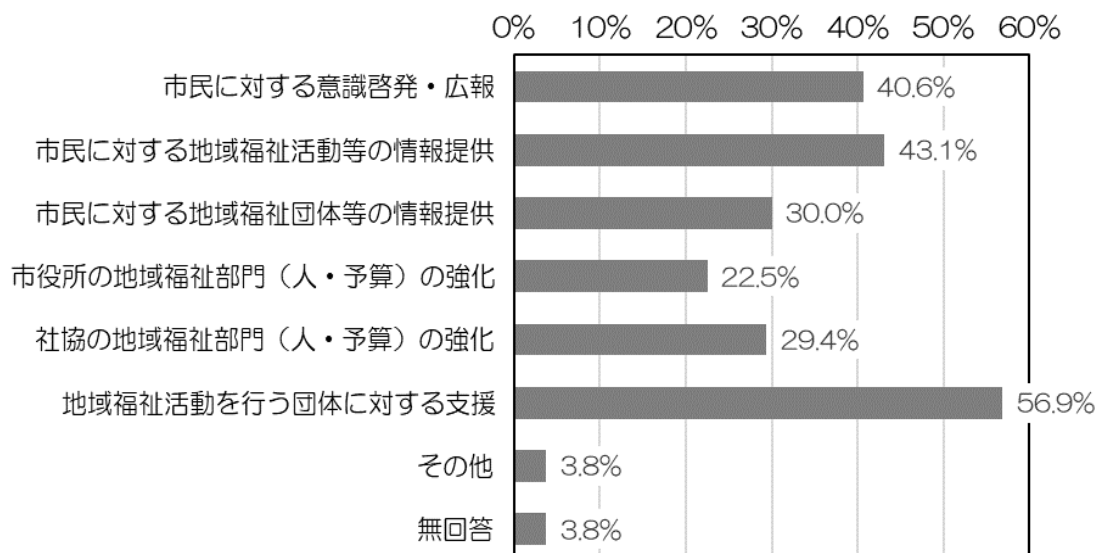


【その他の内容】

- 医療機関関係
- 子ども課
- 市役所観光課
- 市内の会社
- 同じような活動を行っているところとの交流
- 仕事として会の役員になってくれる人
- ボランティア団体

(3) 今後の「地域福祉施策」の方向性

問17. より多くの市民に地域福祉活動に参加頂くためには、市や社会福祉協議会はどのような取り組みを行うことが必要だと思いますか（〇は3つまで）



【その他の内容】

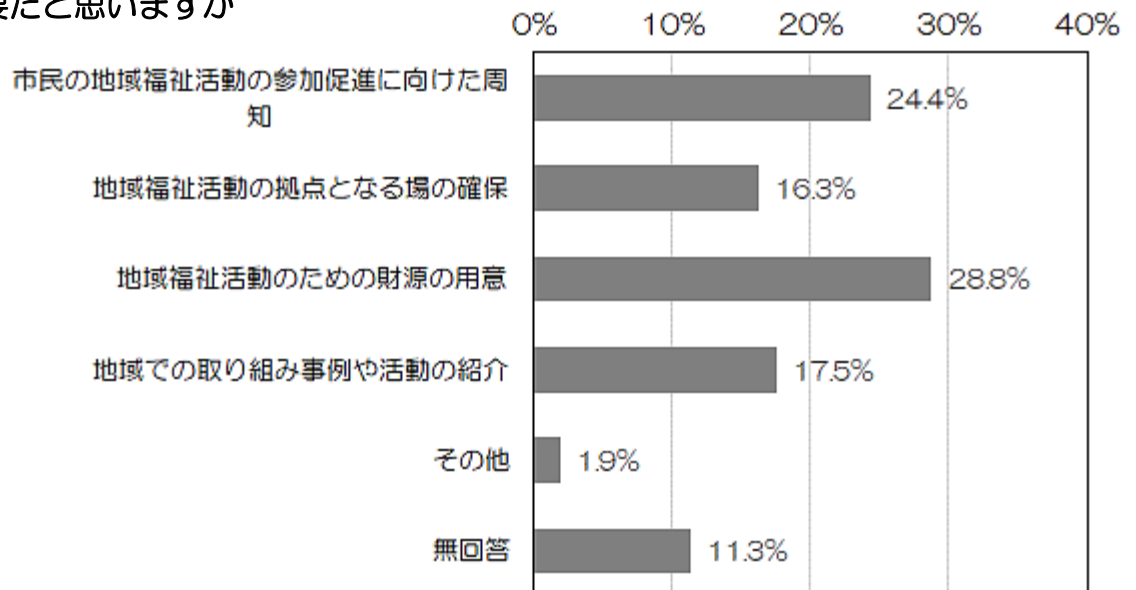
- ・福祉の見方、考え方・・・生活になぞって気づく工夫
- ・住民支え合いの事業の具現化（拡充・充実化）
- ・役所の地域福祉担当が施策を立案しきちんと速やかに実行すること
- ・全戸数が自治会会員になる事
- ・高齢者に対して若者との交流

「地域福祉活動を行う団体に対する支援」（56.9%）が最も高く、続いて「市民に対する地域福祉活動等の情報提供」（43.1%）、「市民に対する意識啓発・広報」（40.6%）である。

※前回調査では、「市民に対する地域福祉活動等の情報提供」（63.4%）が最も高く、続いて「市民に対する意識啓発・広報」（61.6%）、「地域福祉活動を行う団体に対する支援」（54.5%）である。

「無回答」（48.5%）が最も高く、あとはほぼ全てが10.0%未満と細分化している。
（設問の内容が変わったので、前回との比較はなし）

問18. 地域福祉活動を推進するための環境を整備するには、どのようなことが必要だと思いますか



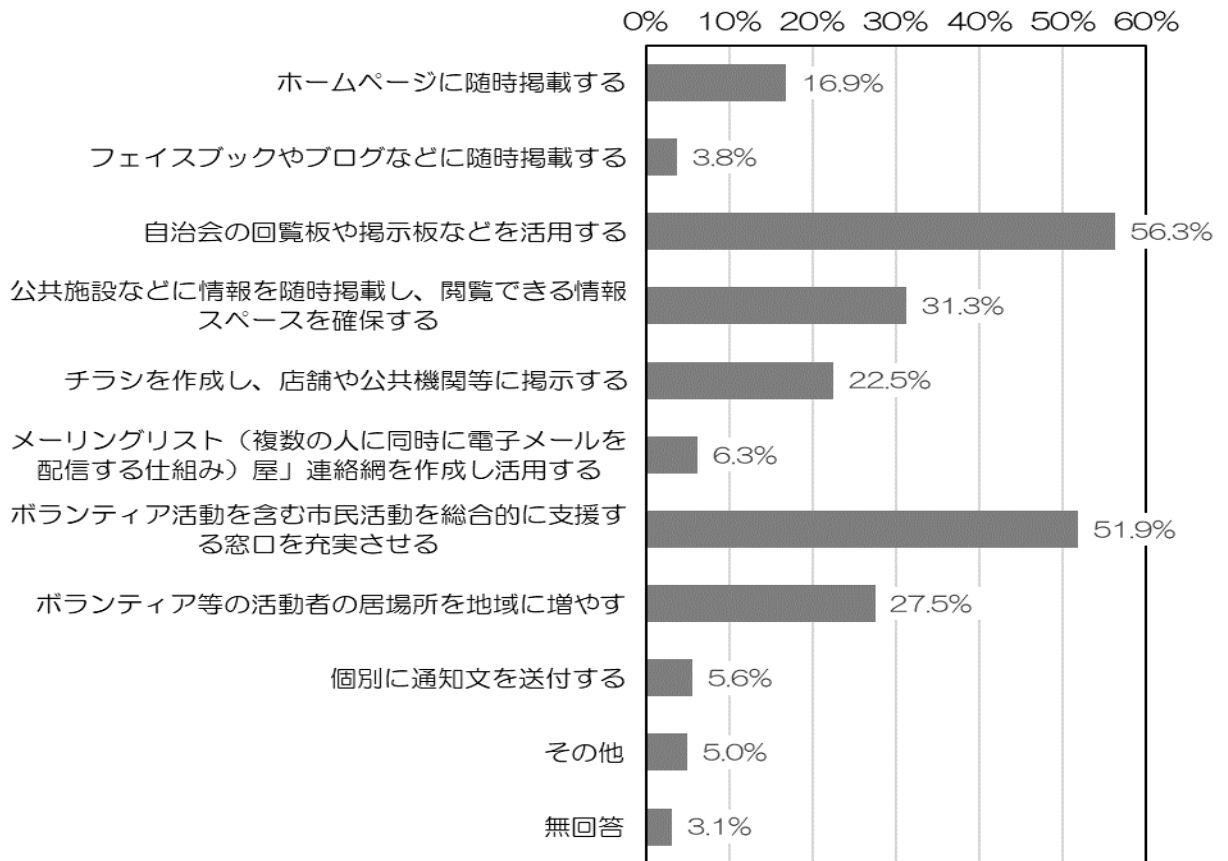
【その他の内容】

- 申込や報告が面倒だとそれだけで手間がとられ本末転倒
- 各地区の公民館の老朽化対策など（予算化）
- 自分のやっていることを具体的に知らせる

「地域福祉活動のための財源の用意」（28.8%）が最も高く、続いて「市民の地域福祉活動の参加促進に向けた周知」（24.4%）、「地域での取り組み事例や活動の紹介」（17.5%）である。

※前回調査では、「地域での取り組み事例や活動の紹介」（26.8%）が最も高く、続いて「市民の地域福祉活動の参加促進に向けた広報」（25.9%）、「地域福祉活動のための財源の用意」（21.4%）である。

問19. 多くの人が地域福祉活動に参加するための情報提供の方法として、どのような方法が有効だと思いますか（〇は3つまで）



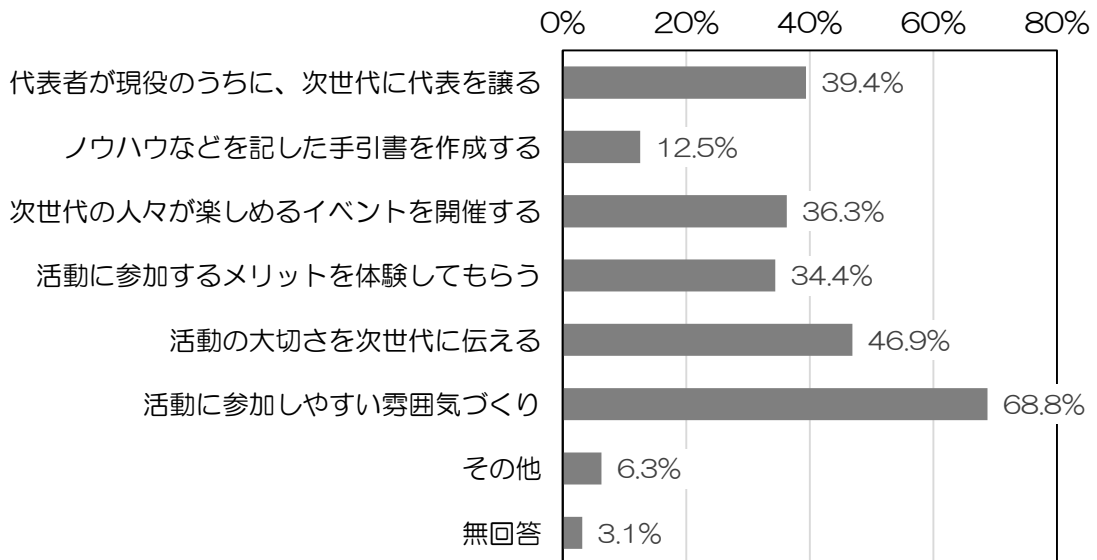
【その他の回答】

- ・精神障害者に対するボランティアですので、どこまで外部に知らせるかが問題
- ・地域福祉団体がアピールできる公的なイベントを考えてほしい。
Ex. 数年までやっていた稲荷山公園でのふれあい広場などの復活
- ・毎回当自治会内15ヶ所に写真入りポスターを貼っている（69回目）
- ・整理された情報を、情報が氾濫している。
- ・情報の一元化
- ・活動場所の確保
- ・口コミ
- ・老人クラブ単会の送付する
- ・市のちゃっぽ
- ・ボランティア団体交流会の実施

「自治会の回覧板や掲示板などの活用」（56.3%）、「市民活動を総合的に支援する窓口の充実」（51.9%）が高く、続いて「情報を随時掲示、閲覧できる情報スペースの確保」（31.3%）、「活動者の居場所を地域を増やす」（27.5%）である。

※前回調査では、「市民活動を総合的に支援する窓口の充実」（51.8%）、「気軽に市民活動者が集える居場所を増やす」（50.9%）が高く、続いて「情報を随時掲示、閲覧できる情報スペースを確保」（45.5%）、「チラシを店舗・公共機関等に掲示する」（28.6%）である。

問20. 次世代の人々に活動を引き継ぐためには、どのようなことが必要だと思いますか（〇は3つまで）



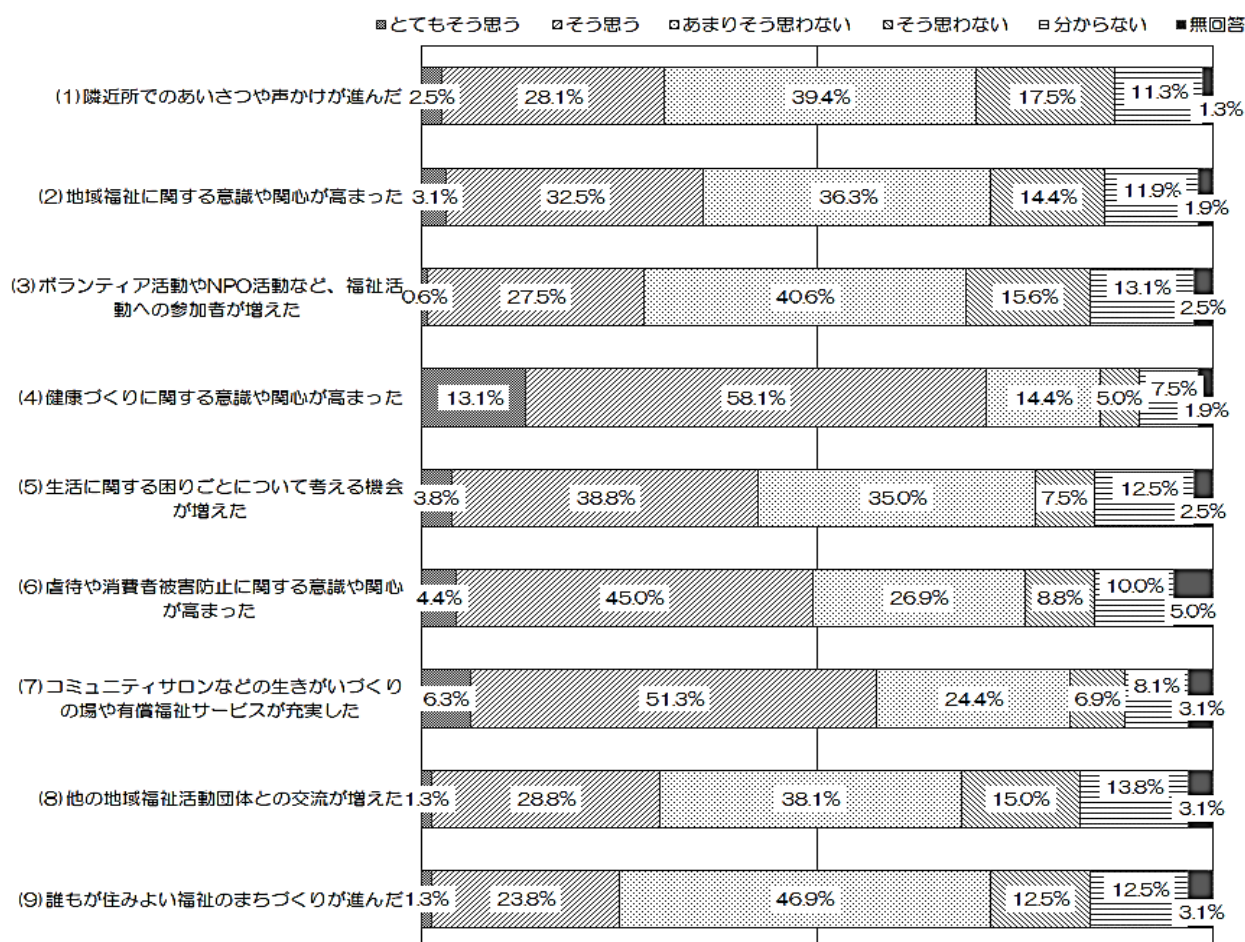
【その他の内容】

- 自治会、体育委員等。積極性やリーダーシップのありそうな人に自治会長推薦や自発的に出来そうな人に「活動案内」等を送付するとよい。
- 地域福祉活動に時間と労力を割けるような個々の生活の安定とゆとり
- 活動が必要ない世の中になる様、行政がしっかり仕事して欲しい
- 活動の重要性をまとめて、チラシなどにしてPRする
- 活動に参加できる余裕のある生活が出来る社会の実現
- 代表者が興味を持ったり楽しみを感じられる活動であれば、参加者も楽しく、もっとやりたいと思うのでは
- 70代でボランティアのできる人
- 事務作業を含め簡略化を図る

「活動に参加しやすい雰囲気づくり」（68.8%）がもっとも高く、続いて「活動の大切さを次世代に伝える」（46.9%）、「代表者が現役のうちに、次世代に代表を譲る」（39.4%）である。（今回はじめての設問であり、前回との比較はなし）

(4) 「地域福祉」の推進状況

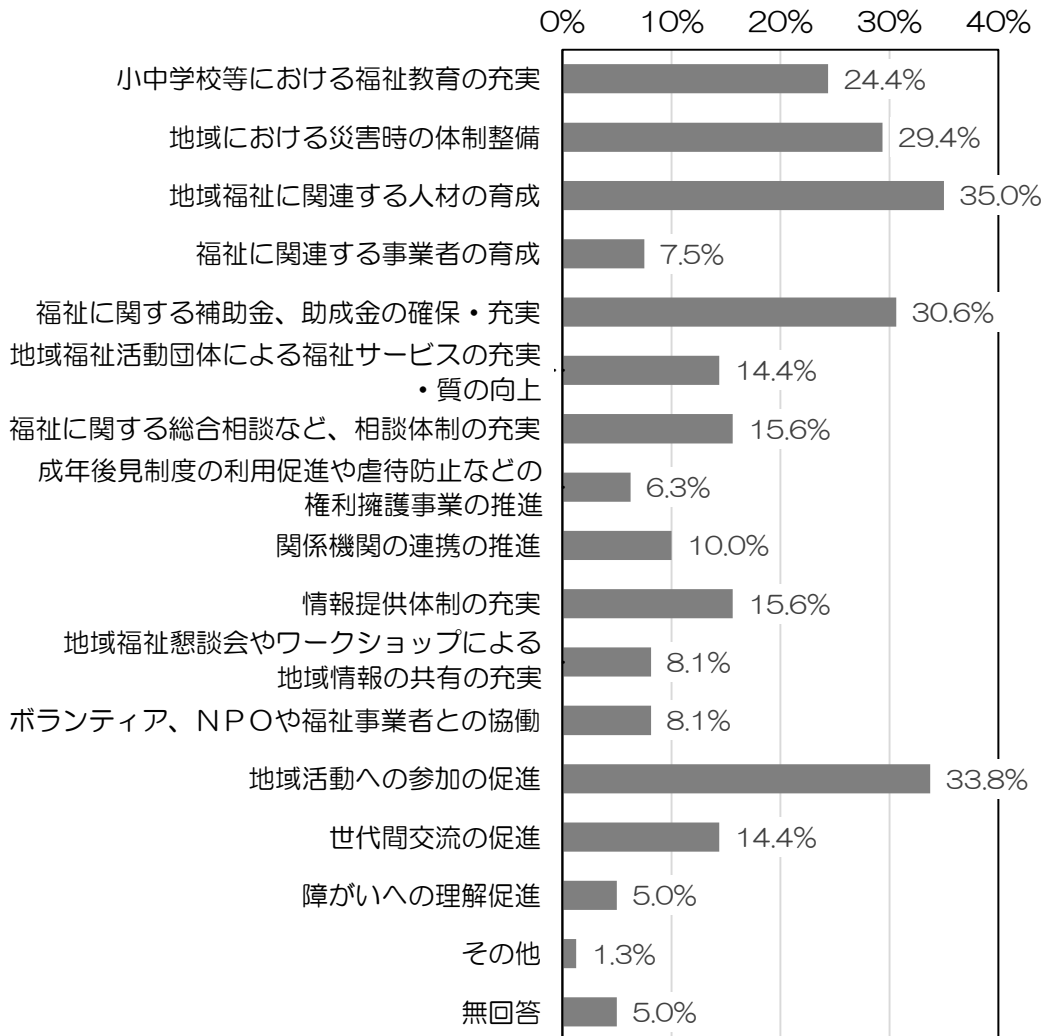
問21. 市と社会福祉協議会では、「平成27年度からの地域福祉推進計画書」を策定し、地域住民・地域福祉活動団体・市・社会福祉協議会の協働による取組みを進めています。平成27年度から現在までの間に、次の取組みがどの程度進んだと思いますか



「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせて比較的に高いのは、(4)健康づくりに関する意識や関心(71.2% 前回 56.3%)、(7)コミュニティサロンなどの生きがいづくりの場や有償福祉サービスの充実(57.6% 前回 47.4%)、(6)虐待や消費者被害防止に関する意識や関心が高まった(49.4% 前回 44.7%)、(5)生活に関する困りごとについて考える機会の増加(42.6% 前回 41.1%)である。

「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせて高いのは、(9)誰もが住みよい福祉のまちづくりが進んだ(59.4% 前回 61.6%)、(1)隣近所でのあいさつや声掛けが進んだ(56.9% 前回 50.9%)、(3)ボランティア活動やNPO活動など、福祉活動への参加者が増えた(56.2% 前回 46.4%)、(8)他の地域福祉活動団体との交流が増えた(53.1% 前回 55.4%)、(2)地域福祉に関する意識や関心が深まった(50.7% 前回 52.7%)である。

問22. 今後地域福祉を充実させるために、市や社会福祉協議会が取り組むべきものは何だと思えますか（〇は3つまで）



【その他の内容】

- ・ 活動場所の確保

「地域福祉に関連する人材の育成」（35.0%）が1番高く、次いで、「地域活動への参加の促進」（33.8%）「福祉に関する補助金、助成金の確保・充実」（30.6%）、「地域における災害時の体制整備」（29.4%）が高い。

※前回調査では、「地域福祉に関連する人材の育成」（45.5%）が1番高く、次いで「小中学校等における福祉教育の充実」（38.4%）、「地域活動への参加の促進」（33.9%）、「地域における災害時の体制整備」（25.9%）が高い。

問23. 市や社会福祉協議会が取り組んでいる「地域福祉の推進」について、ご意見やご提案、感じていることがありましたら、ご記入ください。また、アンケートの方法や内容等についてのご意見や感想等がありましたら、ぜひご記入ください。

《主な意見》

- 定期的に自治会の会議に参加下さり、「地域福祉の推進について」のお話しをすれば、より分かりやすく、参加促進につながるのではないかと。
- 社会福祉協議会とは何をするとところか、PRが不足していると思う。
- 市、社協、ボランティア団体の連携が重要。
- 災害時に手伝えるボランティアグループ間の顔合わせ（交流会）や連絡網の作成なども考えてみたらどうか。
- 「協働によるまちづくり条例」が制定されたので、「福祉の街づくり」の一環として行政の縦割りの壁を超えて本当の意味での協働を実現して欲しい。
- 地域活動者を増やすには、地域で活動している人のお話を聴いたりする機会を設け、小さな力を少しずつ出し合って人々に関わってもらえる様にしたい。
- 高齢化や認知症者の増加が進んでいる現在、ゴミ問題を含めて、福祉と環境を別々に考えることはできない。行政面においても福祉と環境が連絡を密にすることを希望する。
- 今、最も必要なのは、地域福祉に関する人材の育成である。民生委員は動きも大切ですが、人手不足の感じである。
- うまく世代交代ができない場合は、一定の成果を評価した上で、解散も決断をしないといけない事も、ありうる時代になっている。
- 現在の活動は、かろうじて行っている状態。今後協力していただいている方の高齢化でスタッフが少なくなっていくことが課題である。
- イベントがワークショップにすると、性格上、苦手意識を持つ人が躊躇することがある。
- 障害者家族の、親亡き後の相談窓口があればよい。
- 地域福祉の推進に取り組んでいるボランティア団体全体の交流会の実施。
- 集会所やグラウンド等、健康づくりに集まれる場所を増やしてほしい。
- 地域活動の推進は、本当に大切な問題だが、関わっている人はいろいろの多くのことに関わっていて、全体の底辺が広がっていないように感じる。
- 地域で本当に困っている方が埋もれており、声の大きい人に対してのみの福祉政策であってはならない。
- 出てこない人を出掛けさせることは、大変難しい。

※詳細は、別途29ページ以降を参照

(6) 自由記述

問 11. 活動上での課題、困っていることを解決するために、どのような対応をされていますか。ご自由にご記入ください。

【問10の回答欄に基づく回答分類による整理】

1. 財源の確保に関するもの

- ・ 財源の確保には現在自治会に補助してくれるよう交渉中で良い返事が聞けそうです。リーダーに関しては若手に頼んで副会長として養成しリーダーの勉強をしてもらっている
- ・ 車両費（車両経費を含む）増を補うため家賃据え置きで助けてもらっている。運転の研修を取り入れたいと思って来年度 JAF の研修を申し込む予定です
- ・ ランチ代0円から300円へ値上げ、1ヵ月1回麻雀1人500円徴収
- ・ 1. 自主事業、会員会費、寄付金、助成金の積極的な確保努力 3. 新支え手スタッフの募集 5. 人づて、チラシ、会報等で新構成員の募集
- ・ 活動資金の確保については、イベント等に出席する。
- ・ 活動場所の確保については自治会にお願いして使用料の免除等の検討
- ・ バザー実施により財源確保
 - * 委託契約金のみにて運営
 - * 新入会員費＋賛助会費 財源確保
- ・ 他の方の給料を支払うために、代表者がほとんどのサービスに入らなければならない。
- ・ 福祉に理解のある企業に援助をお願いしたいと思っている。自由に寄付金を入れる箱をこども食堂開催日に設置するかどうか検討中
- ・ 財源についてはバザーを開催しているが品物が少なくなり先細りの感がある。リーダーと言っても帽子的なものなので困ったことはないと思う
- ・ ①会員の年会費を確実にいただく ②新会員を募っている ③次のリーダーを育てている
- ・ ①補助金の確保に向けた市への要望活動 ②団体のPR活動
- ・ ①事業の内容変更で対応する／②自治会の助成金で補填している
- ・ ①行政からの助成金の増額を望む／②若い人が参加しやすいイベントの計画及び環境を作る
- ・ ①財源の確保のため受託事業の拡大を実施／②スタッフの処遇改善と多様な勤務形態の実施／③会員を増やすため会員の種類や会費の額の見直し（より入会しやすい会費設定）

2. 活動場所の確保に関するもの

- ・ 自治会館・集会所の活用、地域活動への積極的な参加
- ・ 子どもが単独でも来やすい場所の確保。学校の調理室や空き教室を活用できれ

ば、子どもにとっても良いのは明白なのにやろうとしない行政。働きかけてはいますが全く前進せず

- 自治会新会長との話し合いなど、あちこちに話をしているが、未だ見つからず、現状維持しながら4団体（地区）で話し合って維持する
- 活動場所の交流センターは予約制のため、前もって場所の確保が出来ず開催案内が出来ず困っている。ちゃぽと連携できないか話を進めている

3. 構成員の高齢化に関するもの

- 新団員確保に団員募集のチラシを配布したり種々のイベントの参加したりしているが現段階では成果が出ていない。あと数年後にはボランティアの日数を縮小しなければならなくなるかも、赤十字奉仕団＝炊き出しというイメージを変えたいので、生活支援（避難所等での）の講習を地域に呼びかけて行ってきたい。赤十字のPR活動も今まで以上にやりたい
- 新会員の入会はあるが、会員の高齢化により退会者もあり会員の維持が困難になってくると予想される
- 健康維持と親睦のためにいろいろな活動に参加するよう掲示等で案内している。しかし体調にもよるでしょうが参加しない方が多い
- 1985年発足以来の目的が90%達成した。34年の年月が会員の高齢化に、また、重度障害者の人生設計が終り、自分たち親の高齢化に会の存続が危惧されている
- 本来の活動に立ち返って、足元を固めていくしかない
- 自治会の高齢者を対象のサロンです、参加者が減少し増えてこない
- 活動内容、範囲の見直し
- 会員の8割は高齢者につき年々会員数は減少傾向にある。このため特に対策なし
- 新体制を作りバトンタッチをしていく
- 社会福祉協議会の組織の存在、社協の活動ボランティアについて理解は少しずつ深まりつつありますが、全体では30%位のように思います。（浸透率）一つは社協活動を自治会や老人クラブに紹介交流を図ること。二つは世代を超える小中高大のイベントが必要と思います。（社協福祉大会で各学校等の学習発表等）
- 70才以上の高齢者を対象に毎年行っている。式次第の内容に苦慮している。
- ビンゴゲームは毎年行っている。
- 昼食にはそば打ち会に頼んで手打ちそばを提供していてけっこう喜ばれる。
- パフォーマンスの選定に苦慮していて数年間で繰り返されているのが現状です。（情報がほしいです）
- 提供者が減り、活動回数を減らさざるを得なくなった。
- 参加者が固定化している
新しい参加者を増やすため ①回覧板／②民生委員などによる個別説明

- ・ 会員の在籍年数は比較的長く、長い方は30年以上の方もいます。定着率は良いのですがライフスタイルが変わってきている現在、高齢化は深刻です。
40～50代の若いグループがいますが、子育て最中のこの人達が後継者として育てていってくれることを期待し見守りしながら活動してもらっています。
会員を増やすための母体（例えば市民大学卒業生は青空の会、すこやか体操に入会しています）がないのも大きな悩みです。
- ・ 地域町内に会員募集の回覧を廻し、新会員を加入させた。特に自治会役員OBが加入、次のリーダーに不足ないことが最大の成果です。
- ・ ①新しいスタッフを募集している／②新しい企画会議の開催／③チラシを多く作って配布する
- ・ 構成員の若返りを各班毎に活動をPRし加入の促進をする
- ・ 出前で健康サロンを実施しています。自分たちの健康維持のため。体力、金力が続く限り細く、長く活動していこうと思っています
- ・ ①青年部の設立／②高齢部の設立／③若い手話ができる人の育成／④手話通訳者の育成

4. 構成員の育成

- ・ 構成員を育成して次のリーダーになれるように考えている
- ・ セミナーなどをやっている
- ・ 対話の場の参加者に対して声かけ
- ・ ①月一度の研修会を実施／②市民大学の修了生へ勧誘を行っている

5. 新しい構成員が入ってこない

- ・ 会員の勧誘等万年継続
- ・ 自治会の回覧板や会報でボランティアを募集しているが、なかなかいないので困っている
- ・ 案内人養成講座の実施により案内人確保
- ・ 75歳以上が（1748万人）と子供の数より多い（子供0～15才：1553万人）のに会員は増えない。特に男性は定年退職後もカミシモを脱げない。退職後の人生が永いのを自覚して欲しい。地域コミュニティは強いもの。1995年1月の阪神淡路大震災の際、助けられた人々の大半が公助より近助だった事を肝に銘じて欲しい。
- ・ 新しい会員を増加させるため、お互いに声かけをしている。
- ・ ①自治会だよりでのPR／②新種目での採用
- ・ ①新しい構成員の勧誘についてはクチコミで実施するも乗ってこない。／②構成員の高齢化については解決のしようが無い。／③リーダーへの声掛けをしても、手ごたえ反応がない。※構成員を増やすことは、市からの補助金等を大幅に増額し、毎月のように観劇や会食会等やれば増員できるが（無理な話）

- 一般高齢者（未加入者）への入会を勧めるためゲートボール、グランドゴルフ等の参加を進めています。健康寿命を少しでも伸ばすため。
- 20年以上経つと50代の人でも75歳・80歳となり、だんだん自分のメンテナンスも大変になってきます。社協も常に若い人材をまとめる必要があると思います。ボランティアを小学高学年から中・高校教育の中にしっかりと組み入れてほしい
- 会員の高齢化により年々減少していますが、自治会役員また会員の協力を仰ぎながら組織拡大を努力しています。
- 様々なイベントを計画し沢山の人の参加を願っているが、どうしても特定の人の参加になってしまう
- 会のチラシを作り自治会で回覧してもらっている。
- ①利用者の増加／②構成員の募集・宣伝
- 会員増加活動を推進しているが思っているよりも増員が進んでいない
- 高齢のため、死去による減員も深刻。
- サークル会員の増員がなく、高齢化してきているため、募集をするための講習会などを実施して頂きたい
- ボランティア活動であり、健康第一にして、活動を強制しない
- 募集中
- 自治会役員会、サロンでPRし、新しい方が入ってくるよう努力しています。皆さんが喜んで下さるので毎回努力して続けてまいります
- 参加者の中から構成員になってくれる人を探している

6. 次のリーダーの不在に関する

- 私以外は高齢者で自分に何かあった時サロンはどうしようか？と思う。まだ先の事だけれど、責任をもって、やってくれるボランティアを日々探しています。
- リーダーの養成はしていないが、候補者はいる。しかし多忙のため引き受けてもらえないのが現状
- ボランティアを開始する年齢が高いため（70歳以上から始める）だいたい育ってきたかなという頃に高齢になり、なかなか構成員のTOPに育つまでいかない場合が多い。研修等しているが一朝一夕には育たない
- 少子高齢化や働き方改革で、役員の成り手不足。活動範囲が広く、自治会連合会では目一杯の状況である。
- 自治会は市役所の下請けではないことを各部署は認識が要る。役所の縦割り行政で同種の事業：例えばすこやか体操、100歳体操など・・・。また、災害時要援護者の対応など不明瞭である。
- 次の代表を決めなければいけなくなったので、全会員に向けアンケートを取った（活動内容、定例会、総会、行事、研修、会報発行）についてこのままでいいのか、変えるとしたらどんな点か等。

- ・ 会は存続して欲しいが役員などは受けられない（高齢化、共働き、親の介護等）という会員の声を聴き、時代に合った身の丈に合った無理のない内容にしていく必要を感じた

7. 活動のマンネリ化

- ・ マンネリで新しいことができていない。古い人と新しい人との関係が活動に対して不明である
- ・ ニーズの把握
- ・ ①新しい協力者を探している／②新しい企画を考えています／③チラシや市広報誌に掲載など

8. 連携の強化（行政）に関するもの

- ・ 障害者が抱えている問題について、地域の中で共に考えていきたいと思っています。そのために関係団体、関係機関と今まで以上の意見を交わし進めて行ければと思います。

10. 連携の強化（地域）に関するもの

- ・ 必要とされる子供たちに食事を届けられているか悩む。①学童へのチラシ配布／②県内のネットワークへの参加／③フードバンクとの連携／④児童館への呼びかけ／⑤他団体プレイパークへの食事持ち込み／⑥民生委員見学
- ・ スタートしたばかりで、活動について模索中、応援してくれる仲間の拡大を図ること
- ・ サポーターの確保、いろいろな団体に協力依頼をしている
- ・ 活動のPR、声かけ、地域の自治会等への協力依頼
- ・ 社協富士見支部定例会に出席し、活動報告並びに関係自治会長に協力を依頼している

11. 連携の強化（他団体）に関するもの

- ・ 他団体との連携強化が課題でしたので、2019年には他市団体との持ち回り会議が予定されていましたが、その会議への招待参加依頼並びに社協の参加を呼びかけ、市内団体が連携して交流会開催の運びとすることができ、その後、社協の理解を得られて順調に動き出しました。来年度は更なる強化ができるよう動きたいと思います。
- ・ 課題、問題点を共有化するため、各団体が出席する場を設ける

12. 活動PRの強化

- ・ 市広報の活用（但し、年4回までの掲載制限・もう少し緩和して欲しい）
- ・ 無料の体験講座を実施、ホームページの拡大と強化

- ・ サロンに集ってくださる方々が、諸事情で少なくなった事です。チラシを配ったりしましたが2~3人は集まります。しかし、大変難しい
- ・ 民生委員や地域包括支援センターなどと連携してPRに努めている
- ・ PR効果を高めるため、イベント等について市の広報等の活用に努めているが、十分な手段を持たない。公民館広報誌等の強化を期待している
- ・ 店舗や公共機関にポスターを貼らせて頂いたり、チラシを置いてもらっています
- ・ 困っているというほどではないが、今の活動をより知って頂くためにはどんな方法があるのかと考え中

13. その他

- ・ 地域的關係で車の運転出来る人が少ない為、足の確保が出来ず活動が制限されている。
- ・ 100歳体操の指導者が少なかったが協力者が出てきて、市へ勉強に行ってくれて助かりました。困っていることをサロン内で話したことが解決の糸口になった
- ・ サロン内で困っていることを参加者に正直に伝えることが大事である
- ・ 福祉の情報をサロン参加者に具体的に知らせることが大事である。例えば、2層活動の縁側等、現在どのような事をやっているかを伝えるとサロン参加者は理解してくれる。

問23. 市や社会福祉協議会が取り組んでいる「地域福祉の推進」について、ご意見やご提案、感じていることがありましたら、ご記入ください。また、アンケートの方法や内容等についてのご意見や感想等がありましたら、ぜひご記入ください。

1. 情報提供（広報）について

- ・ 地域福祉について、市民への情報伝達（広報）については、①自治会の回覧版だけでは、読まずに回されてしまうので、全戸配布を基本とするし/②高齢化で、文字情報では伝わり難い…大きい字・一目で分かる様な内容など工夫が必要
- ・ 定期的に自治会の会議に参加下さり、「地域福祉の推進について」のお話を講和して下されば、より分かりやすく、参加促進につながると思う
- ・ 自治会や民生委員に対しては、社協の活動が伝わっているには感じるが、老人クラブに対しては、何も感じられないように思う
- ・ 社会福祉協議会とは何をするとするか、PRが不足していると思う
- ・ より多くの市民が取り組んで、活動している内容を知ることができる方法の充実
- ・ 社協に出入りしている方は、情報を得る機会が多いと思います。しかし、これ

を市民に広げるには、もっと気軽に情報が得られるように体制整備が必要ではないか

- 高齢者の運転免許証の更新会場に、社会福祉会館がなっていることは、PRにもなり良かった。一人暮らしの会食会など、会館利用で、相談に来易くなります。
- 社会福祉協議会の活動について、どんなことをしているか、もっと伝えてほしい。
- 相談できる場所や電話番号を大きく、市広報誌に掲載した方が良いと思います

2. 公的機関相互、公的機関と団体、或いは団体相互の連携について

- 市、社協、ボランティア団体の連携が重要です。台風19号時に、開設された避難所でアルファ米のごはんが造れなかった所があったそうです。大雨の中、どれだけの手伝いが出来たのか、わかりませんが、いざというときに手助けできればいいのですが。
- 災害時に手伝えるボランティアグループ間の顔合わせ（交流会）、連絡網の作成なども、考えてみたらどうでしょうか
- 「協働によるまちづくり条例」が4月に制定されたので、「福祉の街づくり」の一環として行政の縦割りの壁を超えて本当の意味での協働を実現して欲しい。
- 老人会で、ふれあいお茶飲み会を75才以上の独居者でやっているが、同じようなことを社協でもやっているやに聞いている、理解できない。
- 地域資源の発掘は、地域福祉活動を活発にする大きな力になるはずですが、団塊世代の方々が、周りに沢山いるようです。自治会組織をうまく活用するのも一手では、・・・・底辺を広げていくのが大切です。地域活動者を増やすには、地域

で

活動している人のお話を聴いたりする機会を設け、小さな力を少しずつ出し合って人々に関わってもらえる様にしたいです。

- そもそも社会福祉協議会が、市民に馴染みがない事を認識するべき。市が直接やった方が早いなら、そちらで解決する方がよい。（2ステップの意味？）
- 少数のボランティア活動団体等に目を向けて、育成して欲しい
- 高齢化や認知症者の増加が進んでいる現在、ゴミ問題を含めて、福祉と環境を別々に考えることはできない。行政面においても縦割り行政ではなく、福祉政策課と環境課が連絡を密にすることを希望する

3. 地域福祉の担い手について

- 今最も必要なのは、地域福祉に関する人材の育成でしょう。民生委員は動きも大切ですが、人手不足の感じがします。

4. 活動の継続、組織の維持について

- 代表者の世代交代等、課題がたくさんあり、現体制を続けていく上でも問題が

たくさんあると思います。うまく世代交代ができない場合は、一定の成果を評価した上で、解散も決断をしないといけない事も、ありうる時代になっていると思います。

- スタッフの元気なうちは、市内を右へ左へと活動できていたが、年齢を重ねると移動（車）の問題・体力等でだんだんと活動出来る地域が狭くなっています。最終的には、近所（自治会）の中で助け合えるとよいと思うし、今も少しずつ実践に移しつつあります。市内でもだんだん増えていると思うので、それらの活動をつないで役立てて欲しい。それと引きこもりへの善処（対応策）
- 現在の活動は、かろうじて行っている状態です。今後協力していただいている方の高齢化でスタッフが少なくなっていくことが課題です

5. 提案

- 今年度は、せっかく「地域福祉サミット in さやま」を実施するのだから、そのために他の事業（特に社会福祉大会）は見送って、市・社協はサミットに集中して取り組むべきと思いました
- 先日の社会福祉大会の表彰状は、A4 サイズでも OK です。入れる筒は不要です。費用の使い方を工夫して改善されるように
- いつも、お世話になりありがとうございます。狭山市の町全体で、楽しみながら様々なことに入っていける土壌が出来ると良いですね。街ゼミ等と協力して行けると良いのではないのでしょうか
- ボランティア遊具が高価なので、貸出制にしては【社協で購入し、貸し出す】
- 市が推進中の「災害時要援護者支援計画」が停滞気味です。課題が多く基本から見直しが必要だと思います。見直しに当たって、住民の知恵や意見を聞く場を設けてはいかがでしょうか
- イベントがワークショップにすると、性格上、苦手意識を持つ人が躊躇することがあるので、誰もが気軽に立ち寄ることができるイベントの定期開催があると良いと思う。例えば「ふれあい広場」のようなもの。自分は、ふれあい広場での出会いがボランティア活動につながっている。ワークショップには高い壁（抵抗感）があると言わざるを得ない。
- 障害者家族の、親亡き後の相談窓口があればよいと思う
- 地域福祉の推進に取り組んでいるボランティア団体全体の交流会の実施。狭山市福祉大会とは別の福祉祭りを開催する
- 社会福社会館の窓口の総合案内コーナーの設置、相談したいことが1カ所で間に合うようにしたいですね
- 急速な高齢化に伴い、様々な理由でゴミ出しが困難になってきた人が多く、一部ではごみ屋敷化した住居もあります。最近ではゴミ出しの支援を求める声が多く聞かれます。市、社協、地域団体が一丸となり、ゴミ出しが困難な世帯への積極的な支援への取り組みが必要と考える

- 公立の特別養護老人ホームの建設（年金で入所できる施設）
- 赤ちゃんから高齢者まで、すべての世代が交流できる、そんな空間があるといいのでは

6. 要望

- 集会所やグラウンド等、健康づくりに集まれる場所を増やしてほしい
- いつもお世話になっており、ありがとうございます。社協のこども食堂への支援金は3年間と聞いておりますが、その後の資金調達は難しく、どうすれば良いか悩んでいます。継続してご支援いただければ、と存じます。よろしく願いいたします。

7. このアンケート調査について

- （問3）の団体の構成員数で、地域のサロンの場合スタッフだけなのか、来場者も含むのか曖昧です。今回はスタッフの人数を記入しました。問6の予算は助成金と参加者から頂く飲み物代を予算に含めた
- アンケート結果を事業の推進に役立てることが必要
- アンケートは、対象が広範囲なため、抽象的で回答し難いところがありました。例えば、（問19.）「より多くの市民」と言っても、年代的に高齢者はSNSは無理等の特徴があるので、結果としてすべてが有効で、あてはまってしまうと感じた。
- このアンケートは（表現や文書が）官庁用で、市民用ではないように思う
- アンケートを福祉活動全般で行っている様で、当て嵌りにくい質問内容のように感じました分野を分けて絞った内容で質問されると、統計がとりやすいのではないかと感じました。
- 本アンケートの視覚障害者への対応はどうなっているのか。知的障害者や発達障害者のために、表現の仕方やルビが必要と思われます

8. その他

- 社会福祉協議会では、老人福祉を充実すべく努力している。しかし、参加者は一部の人でしかなく、障害者や足腰の不自由な人への配慮が、いま少し不足しているように感じます。一方、防災拠点のPRやベンチの設置などで、相当努力されていると思います。
- 地域活動の推進は、本当に大切な問題と感じていますが、関わっている人がいろいろの多くのことに関わっていて、全体の底辺が広がっていないように感じます。多くの地域の人達を巻き込んだ活動にするためには…このことをじっくり考えるべきではないでしょうか
- 日常の生活に福祉的視点をもって、特別な事ではなく必要なこと（もの）であることを発見し、一人一人が自分の幸福に活かせることにつながることをイメー

ジできたらと思います

- 福祉のあり方についてまだまだ理解できません。受けるべき人とそうでない人、すべての人とありますが、私には、まだそこまでの考え方までには行っておりません
- 十人十色、小さな活動からスタート。
- 高齢化に伴い、車での送迎を行っている
- 男性の参加者が少ない
- なかなか役員をやりたがらない
- 社会福祉協議会とはそもそも何なのか、狭山市の福祉政策課との関連がよくわからない。(勉強不足で申し訳けないが)
- 取り組んでいる方向性がおかしい
- 地域福祉の推進については、いろいろなところでの活動は分かりますが、一般には分かり難いし、どこがやっているのかも分からない。まだまだだな と思います。
- 地域活動を始めて5~6年経ちましたが、地域において、お互いの助け合いの必要性が増して来ているとの認識があります。私達は地域で出来ること、身近な困りごと、そしてご近所同士の心のふれあいを大切に、一步一步活動して行ければ「いいな」と思っています。
- 生涯100年時代、高齢化がもっと進む環境の中、体制整備、サービスの充実と向上、サポートする人材の育成と確保等々、課題は山積であります。
- ボランティアをしている方々には、つながりがありますが、関係していない周囲の人達は、ほぼ福祉には無関心な気がします。現在、傾聴講座への参加者が多いようですが、会員数が少なく困っているところにも、光を当てて、積極的に増員を図る工夫をしてほしい
- 社協は少ない人員で大変な活動をされていると思います
- 「地域福祉推進計画」が、市民にどの程度浸透し理解されているか疑問である。
- 社会福祉協議会の取り組んでいる事が、一般会員には周知出来ていないと思う。その一例が自治会の会員離れ！！自治会に入らない人が、増加傾向にある。
- 私たちのサロンは、設立17年です。自治会からの助成金3万円で年間の活動費用をまかなっています。スタッフも高齢化しており、その苦勞だけが掛っている気がします。月に2回、皆さんは無償の17年です。年1回ぐらゐの食事会でも出来ればと、前から思っています。しかし、財源がありません。
- 地域で本当に困っている方が埋もれており、声の大きい人に対してのみの福祉政策であってはならない。健康で声の大きい人は、自分で色々な人と交流できるので心配ないのに、どうしても役所はそちら(声の大きい人)に目が向かい勝ちです。向こう三軒両隣からの情報を吸い上げ、埋もれた方に対しても表にでられる様なイベントを企画して欲しい。
- 地域の住民が生き生き元気に暮らすためには、住民の交流を大切にして活動を

進めていく必要があると思う。参加して楽しい、もっとやりたいと思えるような活動を通して、少しずつ地域に根付いてゆくのではないのでしょうか

- 市から社協に移った事業：「地域福祉推進環境整備事業」について、多くの方に知ってもらおう。当会では3年間の補助金を頂き助かりました。現在月4回100歳体操やサロン活動を行っています。毎回約30名の方の参加があります。そして、人と人とのつながりが出来てきました。他の地域の方も喜んで参加しています。体操の後のお茶のみが盛り上がっています。
- まだまだ地域福祉に無関心の人が多いと思いますので、頑張ってください
- 問題点を自分の事として捉えることは難しいこと。しかし、これを乗り越えないことには、問題解決は難しい。市役所職員・社協職員の皆さまも、仕事の観点から問題点に対処して頂くのは勿論ですが、一人の人間としてボランティア精神を持って活動して頂けると、市民の協力をもっと得られるのではないのでしょうか
- 自治会へ加入しない人、チラシを配っても一向に見ない人、興味を示さない人、溶け込まない人が増えているように思います。「サロンがあります、楽しくお茶しましょう」と言っても出てくる人は同じメンバー。私は4カ所でボランティアをしていますが、そこを渡り歩いて、あっちこっちに出かけている人が多数いるのが現状です。出てこない人を出掛けさせることは、大変難しい。
- 「世の中に助けてもらって、選挙には行かない、自治会には入会したくない、近隣とはつき合いたくない」昔は、権利と義務で義務ばかり強制され、戦後は、権利のみ主張し義務は負わない。先進国でこんな風潮は日本だけ！ではないか、権利には義務は必ずつくもの、オーストラリアは選挙に行かぬと罰金だ。

第3節 クロス集計の結果

(1) 他団体との交流状況

1. 発足年と他団体との交流（問5、問13）

（単位 %）

母数：各発足年の団体数

他団体との交流 ・勉強会など 交流状況 発足年	定期的 に行っ て	不定 期で はあ る	行 う予 定で あ る	てが必 い、要 ない機 性を 感じ て	をじ全 持なく ついで 予し、 定、性 な機を し会感	無 回 答	団 体 数
2016～2019	4.3	56.5	13.0	21.7	4.3	0.0	23
2011～2015	9.7	48.4	6.5	25.8	6.5	3.2	31
2001～2010	8.3	41.7	0.0	25.0	13.9	11.1	36
1991～2000	7.1	42.9	0.0	14.3	28.6	7.1	14
～1990	45.0	20.0	0.0	27.5	5.0	2.5	40
無回答・不明	31.3	31.3	0.0	18.8	12.5	6.3	16
単純平均値	17.6	40.1	3.2	22.2	11.8	5.0	

1990年以前に発足した団体は他団体との交流について「定期的に行っている」が、1991年以降に発足した団体は「不定期ではあるが行っている」と回答が多い。どの発足年の団体についても他団体との交流を「定期的に行っている」「不定期ではあるが行っている」の合算で半数以上となっている。

(2) 活動上の課題

2. 活動上の課題と発足年の関係（問5、問10）

（単位 %）

母数：各発足年の団体数

発足年 活動の課題・ 困ってること	2016～ 2019	2011～ 2015	2001～ 2010	1991～ 2000	～1990	無回答 ・不明	単純 平均値
財源の確保	30.4	35.5	30.6	0.0	12.5	18.8	21.3
活動場所の確保	8.7	0.0	2.8	7.1	7.5	0.0	4.4
構成員の高齢化	8.7	45.2	58.3	92.9	70.0	62.5	56.3
構成員の育成	8.7	19.4	22.2	7.1	5.0	6.3	11.4
新しい構成員が 入ってこない	21.7	32.3	25.0	64.3	60.0	31.3	39.1
次のリーダー の不在	8.7	32.3	27.8	42.9	50.0	25.0	31.1
活動の マンネリ化	13.0	9.7	5.6	14.3	7.5	6.3	9.4
連携の強化 （行政）	0.0	0.0	5.6	0.0	5.0	0.0	1.8
連携の強化 （社協）	4.3	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	1.1
連携の強化 （地域）	17.4	3.2	8.3	0.0	5.0	6.3	6.7
連携の強化 （他団体）	4.3	0.0	2.8	0.0	2.5	0.0	1.6
活動PRの 強化	17.4	9.7	13.9	0.0	10.0	6.3	9.5
その他	4.3	0.0	11.1	7.1	5.0	6.3	5.6
特にない	13.0	12.9	11.1	7.1	2.5	18.8	10.9
無回答	0.0	9.7	0.0	0.0	5.0	6.3	3.5
団体数	23	31	36	14	40	16	

2000年以前に発足した団体では「構成員の高齢化」「新しい構成員が入ってこない」「次のリーダーの不在」が大きな課題になっている。2001年以降に発足した団体では「財源の確保」が大きな課題になっている。

3. 活動上の課題と地域福祉活動を推進するため環境整備に必要なことの関係性
(問 10、問 18) (単位 %)

母数：必要な環境整備毎の団体数

地域福祉活動を推進する環境整備に必要なこと 活動の課題・困っていること	市民の地域福祉活動の参加促進に向けた周知	地域福祉活動の拠点となる福祉活動の確保	地域福祉活動のための財源の用意	地域での取り組み事例や活動の紹介	その他	無回答	単純平均
財源の確保	15.4	23.1	32.6	21.4	0.0	22.2	19.3
活動場所の確保	2.6	15.4	0.0	3.6	0.0	5.6	4.8
構成員の高齢化	69.2	38.5	60.9	57.1	33.3	33.3	49.2
構成員の育成	7.7	15.4	15.2	14.3	0.0	11.1	11.3
新しい構成員が入ってこない	46.2	34.6	39.1	46.4	33.3	16.7	36.9
次のリーダーの不在	38.5	26.9	32.6	28.6	0.0	38.9	28.6
活動のマンネリ化	12.8	11.5	8.7	7.1	0.0	0.0	7.9
連携の強化(行政)	0.0	7.7	2.2	3.6	0.0	0.0	3.6
連携の強化(社協)	0.0	0.0	2.2	3.6	0.0	0.0	2.5
連携の強化(地域)	5.1	11.5	6.5	10.7	0.0	0.0	7.3
連携の強化(他団体)	2.6	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	3.0
活動PRの強化	17.9	11.5	4.3	14.3	0.0	5.6	10.9
その他	7.7	7.7	2.2	3.6	33.3	5.6	12.2
特にない	5.1	15.4	2.2	10.7	0.0	33.3	13.5
無回答	0.0	3.8	6.5	0.0	33.3	5.6	8.2
団体数	39	26	46	28	3	18	160

「構成員の高齢化」に課題を感じている団体は「市民の地域福祉活動の参加促進に向けた周知(周知)」「地域福祉活動のための財源の用意(財源)」「地域での取り組み事例や活動の紹介(活動紹介)」が必要と感じている。「新しい構成員が入ってこない」に課題を感じている団体は「周知」「活動紹介」、「次のリーダーの不在」に課題を感じている団体は「周知」が必要と感じており、人材への課題への対応策としては「周知」が必要と感じている団体が多い。

(3) 市や社会福祉協議会の今後の取り組みへの要望

4. 団体の構成員人数と今後の取り組みへの要望の関係性（問3、問17）

（単位 %）

母数：各構成員数の団体数

構成員数 今後の 取り組み方	1～ 10人	11～ 30人	31～ 50人	51～ 100人	100人 超	無回答 など	単純 平均値
市民に対する 意識啓発・広報	31.6	31.6	60.9	46.2	100	36.4	51.1
市民に対する地域福 祉活動等の情報提供	42.1	38.6	60.9	38.5	80.0	27.3	47.9
市民に対する地域福 祉団体等の情報提供	23.7	33.3	26.1	34.6	60.0	18.2	32.7
市役所の地域福祉部 門（人・予算）の強化	26.3	21.1	13.0	23.1	20.0	36.4	23.3
社協の地域福祉部門 （人・予算）の強化	31.6	29.8	34.8	19.2	20.0	36.4	28.6
地域福祉活動を行う 団体に対する支援	57.9	56.1	52.2	69.2	60.0	36.4	55.3
その他	7.9	3.5	4.3	0.0	0.0	0.0	2.6
無回答	2.6	5.3	0.0	3.8	0.0	9.1	3.5
団体数	38	57	23	26	5	11	

団体の人数の大小に関わらず、市や社会福祉協議会（社協）の今後の取り組みへの要望として「地域福祉活動を行う団体に対する支援」の要望は多い。また、団体の構成員の人数が50人以下の団体では「社協の地域福祉部門の強化」の要望も多い。

5. 団体の発足年と今後の取り組みへの要望との関係性（問5、問17）

（単位 %）

母数：各発足年の団体数

発足年 今後の 取り組み	2016 ～ 2019	2011 ～ 2015	2001 ～ 2010	1991 ～ 2000	～ 1990	無回答 ・不明	単純 平均値
市民に対する 意識啓発・広報	30.4	19.4	36.1	42.9	60.0	56.3	40.8
市民に対する地域福 祉活動等の情報提供	34.8	48.4	47.2	35.7	47.5	31.3	40.8
市民に対する地域 福祉団体等の情報提供	21.7	45.2	25.0	28.6	32.5	18.8	28.6
市役所の地域福祉部門 （人・予算）の強化	30.4	25.8	25.0	21.4	12.5	25.0	23.4
社協の地域福祉部門 （人・予算）の強化	39.1	22.6	30.6	42.9	22.5	31.3	31.5
地域福祉活動を行う 団体に対する支援	73.9	71.0	47.2	57.1	42.5	62.5	59.0
その他	8.7	3.2	2.8	0.0	5.0	0.0	3.3
無回答	0.0	3.2	8.3	0.0	2.5	6.3	3.4
団体数	23	31	36	14	40	16	

団体の発足年に関わらず、市や社会福祉協議会の今後の取り組みへの要望として「地域福祉活動を行う団体に対する支援」の要望は多い。また、2000年以前に発足した団体からは「市民に対する意識啓発・広報」の要望が多い。

(4) 活動参加者を増やすための情報提供方法

6. 団体の発足年と情報提供方法の関係性（問5、問19）

（単位 %）

母数：各発足年の団体数

多数 の人が地域福祉 活動に参加するための情 報提供の有効な方法	発足年						無回答 ・不明	単純 平均値
	2016 ～ 2019	2011 ～ 2015	2001 ～ 2010	1991 ～ 2000	～ 1990			
ホームページに随時掲載する	17.4	25.8	11.1	14.3	12.5	25.0	17.7	
フェイスブックやブログなどに随時掲載する	4.3	0.0	2.8	14.3	5.0	0.0	4.4	
自治会の回覧板や掲示板などを活用する	52.2	35.5	61.1	85.7	60.0	56.3	58.5	
公共施設などに情報を随時掲載し、 閲覧できる情報スペースを確保する	26.1	25.8	33.3	35.7	35.0	31.3	31.2	
チラシを作成し、店舗や公共機関等に掲示する	26.1	16.1	33.3	14.3	20.0	18.8	21.4	
メーリングリスト（複数の人に同時に電子メール を配信する仕組み）屋」連絡網を作成し活用する	13.0	3.2	8.3	0.0	5.0	6.3	6.0	
ボランティア活動を含む市民活動を総合的に 支援する窓口を充実させる	39.1	74.2	47.2	50.0	40.0	68.8	53.2	
ボランティア等の活動者の居場所を地域に増やす	26.1	41.9	27.8	21.4	12.5	43.8	28.9	
個別に通知文を送付する	8.7	3.2	0.0	0.0	10.0	12.5	5.7	
その他	0.0	6.5	5.6	0.0	10.0	0.0	3.7	
無回答	4.3	0.0	2.8	0.0	5.0	6.3	3.1	
団体数	23	31	36	14	40	16		

発足年の古い団体ほど、参加を促すための情報提供方法として「自治会の回覧板や掲示板などを利用する」のが有効であると感じている。

(5) 市や社会福祉協議会が優先して取り組むべきこと

7. 団体の構成員人数と優先的な取り組み事項の関係性（問3、問22）

（単位 %）

母数：各構成員数の団体数

地域の福祉を充実するため、市や社協が優先的に取り組むべきこと	団体の構成員人数						単純 平均値
	1～ 10人	11～ 30人	31～ 50人	51～ 100人	100人 超	無回答 など	
小中学校等における福祉教育の充実	30.8	25.0	26.1	19.2	0.0	18.2	19.9
地域における災害時の体制整備	35.9	21.4	30.4	34.6	60.0	18.2	33.4
地域福祉に関連する人材の育成	20.5	44.6	34.8	53.8	0.0	9.1	27.1
福祉に関連する事業者の育成	2.6	5.4	8.7	7.7	40.0	18.2	13.7
福祉に関する補助金、助成金の確保・充実	25.6	30.4	34.8	26.9	80.0	27.3	37.5
地域福祉活動団体による福祉サービスの充実・質の向上	5.1	10.7	17.4	30.8	40.0	9.1	18.8
福祉に関する総合相談など、相談体制の充実	12.8	16.1	13.0	15.4	20.0	27.3	17.4
成年後見制度の利用促進や虐待予防などの権利擁護事業の推進	7.7	5.4	0.0	15.4	0.0	0.0	4.7
関係機関の連携の推進	12.8	14.3	13.0	0.0	0.0	0.0	6.7
情報提供体制の充実	17.9	8.9	21.7	23.1	20.0	9.1	16.8
地域福祉懇談会やワークショップによる地域情報の共有の充実	0.0	16.1	8.7	0.0	20.0	9.1	9.0
ボランティア、NPOや福祉事業者との協働	7.7	14.3	4.3	3.8	0.0	0.0	5.0
地域活動への参加の促進	23.1	33.9	47.8	38.5	20.0	36.4	33.3
世代間交流の促進	12.8	21.4	13.0	3.8	20.0	9.1	13.4
障がいへの理解促進	5.1	7.1	0.0	0.0	0.0	18.2	5.1
その他	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	1.3
無回答	12.8	0.0	4.3	3.8	0.0	9.1	5.0
団体数	39	56	23	26	5	11	

団体の構成員人数が少ない団体ほど、市や社会福祉協議会が今後優先して取り組むべきこととして「小中学校等における福祉教育の充実」の優先度が高い。一方で人数が中規模な団体ほど、「地域福祉に関連する人材の育成」の優先度が高い。

また、「地域福祉活動団体による福祉サービスの充実・質の向上」については、団体の構成員人数が増えるほど、優先度が高くなっている。

8. 団体の発足年と優先的な取り組み事項の関係性（問5、問22）

（単位 %）

母数：各発足年の団体数

団体の発足年度 地域福祉を充実するため、市や社協が優先的に取り組むべきこと	2016～2019	2011～2015	2001～2010	1991～2000	～1990	無回答・不明	単純 平均値
小中学校等における福祉教育の充実	30.4	22.6	16.7	28.6	25.0	37.5	26.8
地域における災害時の体制整備	34.8	6.5	25.0	42.9	45.0	31.3	30.9
地域福祉に関連する人材の育成	34.8	45.2	27.8	28.6	40.0	31.3	34.6
福祉に関連する事業者の育成	13.0	3.2	2.8	14.3	10.0	12.5	9.3
福祉に関する補助金、助成金の確保・充実	39.1	38.7	30.6	35.7	25.0	18.8	31.3
地域福祉活動団体による福祉サービスの充実・質の向上	8.7	6.5	16.7	21.4	20.0	18.8	15.3
福祉に関する総合相談など、相談体制の充実	8.7	22.6	19.4	14.3	15.0	12.5	15.4
成年後見制度の利用促進や虐待予防などの権利擁護事業の推進	8.7	3.2	5.6	21.4	7.5	0.0	7.7
関係機関の連携の推進	13.0	19.4	8.3	0.0	12.5	0.0	8.9
情報提供体制の充実	13.0	16.1	16.7	14.3	20.0	12.5	15.4
地域福祉懇談会やワークショップによる地域情報の共有の充実	8.7	6.5	2.8	21.4	7.5	18.8	10.9
ボランティア、NPOや福祉事業者との協働	0.0	16.1	11.1	7.1	5.0	12.5	8.6
地域活動への参加の促進	34.8	29.0	25.0	21.4	45.0	50.0	34.2
世代間交流の促進	17.4	16.1	13.9	0.0	17.5	18.8	13.9
障がいへの理解促進	4.3	0.0	5.6	0.0	12.5	6.3	4.8
その他	0.0	3.2	0.0	0.0	5.0	0.0	1.4
無回答	4.3	6.5	8.3	7.1	0.0	6.3	5.4
団体数	23	31	36	14	40	16	

発足年が古い団体ほど、市や社会福祉協議会が今後優先して取り組むべきこととして「地域における災害時の体制整備」「地域福祉活動団体による福祉サービスの充実・質の向上」の優先度が高い。一方で発足年が新しい団体ほど、「福祉に関する補助金、助成金の確保・充実」の優先度が高い。